

る多くの中学生に合った道徳授業であり、「②価値明確化」によって生徒同士が互いの価値観の違いを知り合う授業や、「③モラル・スキル・トレーニング」や「④構成的グループ・エンカウンター」で人間関係やコミュニケーションを円滑にする共同体道徳の行動を学ばせる意義は大きい。なお筆者は、これらにもう1つ加えて、評価活動における「パフォーマンス課題（評価）＝リアルな文脈（パフォーマンスの実践）で様々な知識やスキルを総合して使いこなすことを求める評価」（西岡，2009）を提案したい。道徳授業もアクティブ・ラーニングが求められているのである。

## 5 道徳教育と教科教育，特に社会科教育との関連を図る

胤森裕暢氏は，道徳特設で社会科から分離した今の道徳が，改めて社会科との関連を図るなら，と「情報社会」を例に述べる。（胤森，2014）

例えば道徳の授業で情報社会の道徳，特にインターネットや携帯電話の利用の仕方を考えることは，子どもにとって切実なので，追求したくなる。ただし子どもは，①今どういう問題が発生しているか，どのような規制が加えられているか，他国ではどう対応をしているか，インターネットはどれだけ普及し，将来どのようなサービスが展開しそうなかの等も把握しなければ，適切な判断にたどりつけない。また例話を出すなら，②情報社会における同様の問題に向き合っている人物たちの判断や価値観が手がかりになる。（※下線：筆者）

道徳授業において適切な判断を行わせるためには，社会科の学習で上記の2つの学習内容が得られると効果的であるという。

また，大杉昭英氏は，平成20年版学習指導要領の道徳教育について，規範意識として決まりや法を遵守する指導において，「法のルール」と「状況に応じて作り替えることができる」の2つの側面の説明に不十分さが残ると指摘し，それを補うのが社会科の学習であると述べる（大杉，2009）。このように教科学習との相補的な関係をさらに意識化する必要がある。

## V 体験的・実感的ストーリーの導入

### 1 道徳授業における教材（道徳資料）の要件

中学校学習指導要領「道徳の時間」の目標記述における人間性や生き方に関する箇所は、1977（昭和52）年版以降大きく変わってきている。

1958(昭33)〈道徳教育の目標と道徳の時間の目標は一体的に記述してある〉  
1969(昭44)「人間性についての理解を深めるとともに、」  
1977(昭52)「人間の生き方についての自覚を深め、」  
1989(平元)「人間としての生き方についての自覚を深め、」  
1998(平10)「道徳的価値及び人間としての生き方についての自覚を深め、」  
2008(平20)「道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、」

1977年版では、「人間性を育てるための教育」がより重視され、知育偏重の教育から知・徳・体のバランスのとれた教育の実現が目指されるようになった。その後、2008年版では「道徳的価値の自覚」と「自己の生き方についての考え」の双方を深めることになり、前者の「価値注入＝徳目主義」のみの道徳授業の色彩が薄められた。これから述べる「体験的・実感的ストーリー」は、この新たな趣旨に沿った方策を提案するものである。

また、教材（道徳資料）に具備させるべき要件として、『平成20年学習指導要領解説・道徳編』では以下の項目を挙げている。

- ア 生徒の感性に訴え、感動を覚えるようなもの
  - イ 人間の弱さやもろさに向き合い、生きる喜びや勇気を与えられるもの
  - ウ 生や死の問題、先人が残した生き方の知恵など人間としてよりよく生きることの意味を深く考えることができるもの
  - エ 体験活動や日常生活等を振り返り、道徳的価値の意義や大切さを考えることができるもの
  - オ 悩みや葛藤等の心の揺れ、人間関係の理解等の課題について深く考えることができるもの
  - カ 多様で発展的な学習活動を可能にするもの
- （※下線：筆者）

永田氏によると、上記のキーワードから考えて、生きる姿の現実に裏打ちされた資料が強く求められているという。（永田，2014）ここでも「体

験的・実感的ストーリー」のねらいが合致するわけである。

## 2 道徳指導教師に求められる「体験し実感する」教材開発

道徳授業の教材は、教科授業の多くの教材のように客観的な知識や概念を効率的に伝える「ある教材」ではなく、指導する学校や子どもの実態に即して改変する「なる教材」を重視し、より柔軟な発想が必要となる。やがて正規の「教科化」授業が実施されれば、検定教科書によって必要最低限の教材準備は支えてもらえるだろうが、果たして学習指導要領に示された内容項目の趣旨に沿って自主的に教材作成できる力をもつ教師になれるかどうか。それには、教師は自らの生きてきた途上で得た豊かな体験や知識、豊富なストーリーやエピソードを有効に活用できなければならない。厳しいが、何も体験せず、何も知らず、何も語ることのできない教師は、道徳を教える教師としては相応しくない。さらに、様々な情報や事象を自らの考えや体験に関連付けて授業の教材として開発できる「アンテナの高い人」でなければ道徳を教える教師としては相応しくない。

そのため、「**体験し実感すること**」がキーワードとなる。「体験」は机上や頭脳レベルや静的な居住まいの感覚の不十分さを補い豊かにする。ただ人は「体験」しても、「実感する体験」は少ない。道徳授業における有益な教材としての経験——「体験」が知的処理を通過したもの——に基づく自作資料は、まず「実感が伴った体験」が下地になる。その実感とは、実際に感じている心底からの感情の表明であり、切実感や当事者意識や危機意識であったりする。冷静な思考・判断で道徳的価値に懐疑的になったり、熱い感情で道徳的価値を強烈に真に受けたりするときもある。

もちろんこの発想が教材すべてではないが、道徳指導教師は存在感の薄い教師であってはならない。ぜひとも子どもたちに人の息吹を感じさせてほしい。これが「体験的・実感的ストーリー」の根本の考えである。

### 3 吉田松陰の生き方にみる体験的・実感的ストーリー

周知のように、江戸幕末に多くの人材を育てた吉田松陰は、情熱家であり勉強家であった。旅をしながら本を読み、牢獄に入れられても本を読み続けた。それもただ黙々と読むのではなく、人物伝を読みながら、その人物の清い態度に号泣し、軽率な行動に激怒し、華々しい活躍に躍り上がって喜んだという。(池田, 2013) これはまさしく「体験的・実感的ストーリー」を体現したものである。道徳指導教師が少しでもこのような姿勢で道徳授業を行えば、必ずこれまでとは違った効果が生まれる。

但し、注意を要する。教育に情熱を注ぐ教師は、ともすればその情熱が、他人への愛ではなく自身への愛に溺れて陶醉し、それを容易く合理化・一般化してしまう危険がある。このことに関連して、社会科が道徳教育を担っていた道徳特設直前の1955（昭和30）年版小学校学習指導要領改訂版にも、その関連の文言を、次のように見つけることができる。

修身科では、徳目を具体的に理解させるために主として例話が用いられた。この例話は、時と所を異にした人物の行為の例であっても、それが児童の道徳的心情をゆり動かし、かなり強い感銘を与えるという教育的効果は大いに認めなければならない。しかし、そのような例話を通して児童に感銘を与えておきさえすれば、かれらが将来いろいろ異なった現実の事態に対処していく場合、いつでも正しい道徳的判断をし、望ましい社会生活ができるものとするのは早計である。

(※下線：筆者)

### 4 中学校朝礼の校長講話における「体験的・実感的ストーリー」

筆者が中学校長の時、朝礼で月1回全校生徒と教職員に伝えた「体験的・実感的ストーリー」は、所属教員から「校長先生、生徒たちは今日の話を聴いて、しばらく落ち着いていると思います」と言われることがあった。聴いている多くの生徒たちの気持ちを豊かにし、学校内外の生活を意欲的にさせ、問題を起こしそうな生徒にも抑止力をもつ講話、これがまさに

「体験的・実感的ストーリー」の機能を発揮した効果である。

次の一覧は、筆者の最終勤務校3年間の朝礼講話の一部である。

- 1 魂に力を蓄える一本当の楽しさは我慢しないと味わえない (※後述)
- 2 ベトナム戦争で両足を失った男が拳2つでアメリカ大陸横断
- 3 あるロックシンガーの死 = WARREN ZEVON (ウォレン・ジヴォン)
- 4 大島みち子「健康な3日をください」—「日常」の大切さ (※後述)
- 5 登ることは全て楽しい—登山家・山野井泰史の生き方に学ぶ (※後述)
- 6 サンタクロースは本当にいるの？
- 7 この世で一番美しい音—げんじいと一郎の物語
- 8 「音楽の前ではどんな障壁も存在しない」—辻井伸行
- 9 あるボクサーの誓い—覚醒剤「やめ続けること」
- 10 思い出に残る生徒—T男のこと (※後述)
- 11 『山月記』から「心の中の虎—臆病な自尊心と、尊大な羞恥心」
- 12 本当の“カッコいい男”とは—風の男・白洲次郎
- 13 チョッチャン—こんなにやさしい子思いの犬がいた
- 14 「ある求婚者の記」—一人まねでなく、個性的に生きることは
- 15 映画「コンラック先生」—私はなぜ教師になったか

これら校長講話のねらいとしたことは次の4点である。

- ①感情や情緒に訴えて**感動**を重視するが、必ず**知的**なものも忘れない。
- ②現在の自らの**生活を再考**させ、その後の生活に**意欲的**に向かわせる。
- ③**人間を観る眼**を豊かにし、物事をよく考え、自らもよく**自問自答**させる。
- ④将来、学校でそういうことを**教えてもらわなかった**と言わせない。

そして、思春期真っ只中の中学生の実態を次の4項目と捉えていた。

- ①**価値観**が大きく変わって転換する時期で、**大人の生き方**を注視している。
- ②将来生きていくことに**夢や憧憬**を強く抱き、**安定**した進路を望んでいる。
- ③自分のことを心配し力になってくれる、**信頼**できる友人や知人を求めている。
- ④周りの人たちにバカにされずに受け入れられ、**承認**されることを求めている。

校長講話は、先の4つのねらいとこの4つの実態を考慮しながら関連する話材を取り上げて行い、教員や生徒の反応でアセスメントを行った。

## 5 大学の授業実践における「体験的・実感的ストーリー」の実際

この中学校における校長講話の幾つかを先に述べた大学の教職科目「道徳教育の研究」の授業で「体験的・実感的ストーリー」として実際に用いた。授業では毎回の最終時間 15 分で、スライドに粗筋を要約したものを映してそれを筆者か学生が読み上げ、その後関連発問を行った。

以下、関連の学習指導要領・道徳内容項目※と概要、反応を紹介する。

(1) 第 2 回授業……大島みち子「健康な 3 日をくださいー日常の大切さ」

**【ストーリー概要】** ※強さ・気高さ ー大島みち子『若きいのちの日記』より  
(1 日目) 私はとんで故郷に帰りましょう。そしておじいちゃんの肩をたたいてあげて、母と台所に立ちましょう。父に熱かんを 1 本つけ、おいしいサラダをつくって、妹たちと楽しい食事を囲みましょう。  
(2 日目) 私はとんであなたのところへ行きたい。あなたと遊びたいなんていいません。お部屋のお掃除してあげて、ワイシャツにアイロンかけてあげて、おいしいお料理をつくってあげたいの。そのかわり、お別れのときやさしく手をにぎってね。  
(3 日目) 私はひとりぼっちで思い出と遊びましょう。そして静かに 1 日が過ぎたら、3 日間の健康ありがとうと笑って永遠の眠りにつくでしょう。  
**【授業者のコメント】** 健康や家族との生活などを当然とは思わないで、時には振り返って感謝したい。貴方は死に臨んでこのような 3 日間を考えられるか。

### 【学生の反応】

○小中を含めて、大島さんの話は、初めて経験的に「道徳」のいい授業の一端を知ることができた。それほど小中の時の道徳の授業はずさんだった。

○これまでこの種の話は単なるお涙頂戴のクサイ話だと思ってきたが、今日はまるで違う印象を受けたのはなぜだろうか。

(2) 第 4 回授業……菊池大麓「常に紳士としての誇りを忘れない」

**【ストーリー概要】** ※友情・正義 ー高森顕徹『光に向かって 100 の花束』より  
○菊池大麓は明治時代の世界的な数学者。ケンブリッジ大留学時は首席。  
○あるとき重い病気で入院。誇り高さイギリスの学生たちは、他の国の者にトッ